


(シラバス No.10) (専門科目 教育実践講究)

科目名	教育実践講究Ⅱ (教育現場の課題解決のための方策) 英語名: Special Seminar on Methodology to Solve Practical Issues	必修/選択	必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	三田地 真実	
【授業概要】				
<p>本科目では、多様な分野の教育実践に関わる者が集って、①教育現場で起こっている課題や問題を客観的に把握し、②抽出された課題や問題を解決していくための理論と具体的な技術を学びそれを実践することを目指す。その際の一つの手法として、応用行動分析学の理論とファシリテーションの手法を応用する。</p> <p>これにより、個人で解決が難しい21世紀の教育的な課題について、複数の関連機関、関係者が連携を取りながら取り組む方法、そのプロセスの中で、問題を客観的に把握し、それを関係者間で共有し、さらにはその問題の解決策を相互に触発しながら模索し、具体的な行動計画を立案し、各自が自らの行動を変容させることができるようにする。</p>				
【キーワード】				
今日の教育課題、関係機関の連携、応用行動分析学、ポジティブ行動支援、ファシリテーション				
【授業の到達目標】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育的課題を解決するための具体的なプロセスを応用行動分析学の理論に基づき課題分析することができる。 2. 解決に向けて、どのような組織、関係者との連携が必要か、明確に計画立案することができる。 3. 関連組織、関係者の各々と課題解決に向けた、科学的コミュニケーションをとることができる。 4. 複数の関係者が問題解決に向けての話し合いを行う際に、ファシリテーションの技法を応用できる。 5. 3. のプロセスを通して導出された行動計画を実行し、その効果を応用行動分析学の理論に照らし合わせながら省察しながら改善することができる。 				
【教育の方法】				
スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
【授業計画】				
回	内 容			
1	オリエンテーション 本授業の目的と進め方、教育的課題について (事前学習をもとに、各自の現場の教育的課題について、他領域の人とのディスカッションを通して、共通する部分と各自の現場に固有なものを整理する。) (スクーリング)			
2	教育現場の課題を客観的に分析するための理論としての行動分析学の概要を学ぶ (スクーリング)			
3	各自の現場における課題を行動分析学の枠組みで整理しなおす。			
4	整理しなおした課題の解決の手立てを行動分析学の理論に沿って立案する。 (次回のSCまでに自らの実践はレポートとしてまとめる)			
5	各自の課題の解決の手立てを受講生で共有し、さらに良い策となるように理論に基づきながらアイデアを出し合う。(スクーリング)			
6	改善された手立てを具体化する手続きを理論に基づき立案し、受講生で共有する。(スクーリング)			
7	課題解決のための手立てをさらに行動分析学他の理論と照らし合わせて洗練化する。			
8	自らの現場で、立案した手立ての一部を実践し省察し、さらなる課題を抽出する。 (次回のSCまでに自らの実践はレポートとしてまとめる)			
9	抽出された課題で、特に一人では解決できないものを選び、関係者で連絡調整をする必要性を整理する。(スクーリング)			
10	実際に関係者が集って話し合いの場を設定する際に必要なファシリテーションの技術を			

	体得する。(スクーリング)
11	複数の関係者が集って話し合いながら、課題解決する場をデザインし実際に実践する。
12	実践したプロセスをファシリテーションの視点と行動分析学の理論の両面から省察し、改善点を抽出する。
13	抽出された改善点を基に、さらに話し合いの進め方や関係者へのコミュニケーション方法について検討し、具体的な進め方を考案する。 (次回の SC までに自らの実践はレポートとしてまとめる)
14	各自の実践報告を行い、お互いにフィードバックをする中でさらなる改善点を見出し、次への実践につなげる。(スクーリング)
15	全体総括 (スクーリング)

試験

【履修にあたっての準備・履修上の注意点】

初回スクーリング (SC) 受講後は、指定したテキストを読み、教員が提示した課題を行ってから出席すること。(課題の締切りは SC の 1 週間前の同じ曜日の夜 21 時までとする)

行動分析学とファシリテーションについては、可能であれば大学院か学部の授業を受講して、基礎固めをしていただくことをお勧めします。

【スクーリングでの学修内容】

※「次までの課題」は授業の流れで変更になる場合がありますので、毎回の SC で再度詳細はお伝えします。

(事前課題) 自分が教師として関わる教育場面 (あるいは準ずる場面、それもなければ家族や友人とのやりとりの場面でも可) において、児童生徒 (あるいは他者) とのやりとりうまくいかなかったと思えた過去の具体的な事例を 3～5 個挙げて、その場面を自分なりに分析してまとめておく。(SC の 1 週間前までに提出のこと) ※ここでは自分のこれまでのスタイルで分析してください。

スクーリングは 4 回に分けて実施し、合計 8 コマ 12 時間以上行う。

■SC 1 回目 (授業 1・2 回に相当) のスクーリングでは、本授業の概要と現場の教育的課題の整理及び理論 (応用行動分析学) に関して扱う。

⇒一般抽象的な話ではなく、自分が教師として関わっている場面を取り上げる。

(次までの課題) 自らの教師としてのやりとり場面 (あるいは準ずる場面、なければ家族や友人とのやりとりの場面) を録画・録音し、文字起こしし、どこかの場面を抽出して ABC 分析を行う。

■SC 2 回目 (授業 5・6 回に相当) のスクーリングでは、1 回目のスクーリングで課された課題 (理論に沿って現場での実践を行う (現場の課題の把握)) をもとに実践の共有と省察を行っていく。

(次までの課題)

自らの教師としてのスタイル・課題を把握した上で、再度変えるべき点を整理し、再度録画・録音し、文字起こしした上で考察する。

■SC 3 回目 (授業 9・10 回に相当) では、2 回目のスクーリングで整理された各自の教育的課題の解決の手立てを考察する。このスクーリングでは解決の手立てを具現化するためのファシリテーションの技術を実際に扱う。

(次までの課題)

他者との共同で困っている課題を抽出し、その話し合い場面を設定してファシリテーションの技術をどのように活用するか、プランを立てる。

■SC 4 回目 (授業 14・15 回に相当) のスクーリングでは、3 回目のスクーリングで課された課題である「課題解決の現場での実践」に関して議論し、課題解決までのプロセスを省察する。

(R 試験) ※詳細は SC の中でお知らせします。
他者との協働で解決すべき課題、解決までのプロセスを丁寧に描き出す。
4 回目のスクーリング後には、1 年間の理論と実践の往還をしたプロセスをまとめて科目修得試験のレポートとして提出する。

【評価方法】

・各スクーリングで課したレポート課題の評価 (50%) と、科目修得試験 (50%) で評価する。

【教科書】

- ・三田地真実・岡村章司 (2019) 『保護者と教師のための応用行動分析入門ハンドブック』 (金剛出版)
- ・三田地真実 (2013) 『ファシリテーター行動指南書』 (ナカニシヤ出版)
- ・コルトハーヘン (2010) 『教師教育学—理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』 (学文社)

【ダウンロード】 ※以下はダウンロードしてください。(Web 検索で出てきます)

SC 1 = スクーリング第 1 回目の意味

SC 1 用: 村井尚子. (2019). 省察による保育観の問い直し: ALACT モデルを用いた教育実習のリフレクションを通して.

SC 2 用: こちらから PDF を配布します。

SC 3 用: 佐藤智彦, 三田地真実, & 岡田徹太郎. (2019). < 研究論文 > 大学経済学専門科目の「大人数講義型授業」における「アクティブ・ラーニング型授業」導入効果の検証. *京都大学高等教育研究= Kyoto University Researches in Higher Education*, 25, 1-12.

SC 4 用: 三田地真実. (2019). ライフヒストリー曼荼羅ワークショップ: 他者を理解すること. *哲学 (慶應義塾大学三田哲学会)*, (142), 187-219.

【参考図書】

- ・中野民夫・三田地真実 (2016) 『ファシリテーションで大学が変わる!』 (ナカニシヤ出版)
- ・三田地真実 (2007) 『特別支援教育連携づくりファシリテーション』 (金子書房)
- ・石黒康夫・三田地真実 (2015) 『参画型マネジメントで生徒指導が変わる～『スクールワイド PBS』導入ガイド 16 のステップ』 (図書文化)
- ・オニール他 (2017) 『子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック』 (金剛出版)
- ・佐伯胖ほか 『ビデオによるリフレクション入門』 (東大出版会)
- ・Cooper, J. O., Heron T. E. & Heward, W. L. (2019). *Applied Behavior Analysis (3rd)*, Pearson
- ・Justice T. & Jamieson, D. (2012). *The Facilitator's Field Book (3rd)*, AMACOM
- ・B. F. スキナー (2019). 『スキナー重要論文集 I～心理主義を超えて～』 (勁草書房)
- ・Schwarz, R. M. (2016). *The Skilled Facilitator: A Comprehensive Resource for Consultants, Facilitators, Coaches, and Trainers (3rd)*, Jossey-Bass
- ・Kaner, S. (2014). *Facilitator's Guide to Participatory Decision-Making (3rd)*, Jossey-Bass

【教員メッセージ】 『一にも観察、二も観察、三四も観察、五に観察!』

教育現場の問題を本当に解決するためには、「まず現場で起きている現象 (子どもの行動、教師の行動など)」を客観的に観察することです。そのために大事なことは、まず自分の教え方のスタイル、コミュニケーションのスタイル、つまりは自分の顕現的行動と非顕現的行動の両方をしっかり観察し理解していることです。一見簡単そうなことですが、我々は主観だらけ (日常的直観と言います) でこの世を見ています。この観察する技術をなくして、理論ばかりを学んで頭でっかちになっても全く本質的な解決には結びつきません。本授業では、この「行動観察」を徹底的にトレーニングすること、さらにはそのような観察を元にして他者とうまく話し合うための技術 (ファシリテーション) について学びます。学んだ理論を使えるものに、さらに他者と共有できるようになることを狙いとします。

【備考】

特記事項なし